

2023 年横浜ナザレン教会・聖霊降臨祭 (5/28) 礼拝

「救いへと導いてくださるお方」

創世記45:1～8, 使徒 1:4～5

【聖書】

創世記45:1ヨセフは、そばで仕えている者の前で、もはや平静を装っていることができなくなり、「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫んだ。だれもそばにいなくなってから、ヨセフは兄弟たちに自分の身を明かした。2ヨセフは声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷にも伝わった。

3ヨセフは、兄弟たちに言った。「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかった。4ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか、もっと近寄ってください。」兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。5しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責めあつたりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。6この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。7神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。8わたしをここに遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。

使徒言行録 1:3 イエスは苦難を受けた後(のち)、御自分が生きていることを数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。4そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。5ヨハネは水で洗礼(バプテスマ)を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によるバプテスマを受けられるからである。」…8「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤ、サマリアの全土で、また、血の果てに至るまでわたしの証人となる。」

1 ヨセフ物語

聖霊降臨、おめでとうございます。2000年前のイースターから50日目、祈る群れの上に聖霊なる御神が降ったことを思い起こす礼拝、今年は、五月の最終週となり子どもと大人の合同礼拝と重なりました。子どもの礼拝のカリキュラムは、ヨセフ物語。聖霊降臨を祝う礼拝で、ヨセフ物語はとてもふさわしいなあ、と思った、と言うと不思議に思う方もいるかもしれません。確かに、ヨセフ物語には、「聖霊」という言葉どころか、「霊」という言葉は全く出て来ません。

しかし、それでもヨセフ物語のそこかしこに霊なる御神の働きがあります。ヨセフ物語には、ヨセフがピンチに陥る度に出て来る言葉があります。それが「**主なる神がヨセフと共におられた**」と言うです。この時、ヨセフと共におられた神とは、人の肉眼には見えない形、「霊」という形でヨセフと共にいて、ヨセフに進むべき道を示し、その道を選び歩む力を与え続けてくださいました。聖霊なる神の御力があつたからこそ、ヨセフは逆境をはねのけ、エジプト帝国でファラオに次ぐ地位に昇って、大飢饉から一族や世界を救うことができました。今日は、聖霊なる御神はどのようなお方で、どのように私たちに働いてくださるのか、創世記のヨセフ物語と使徒言行録の主イエスの言葉から見ていこうと思います。

2 具体的に導いてくださる方

それにしても、習慣も言葉も何もかも違う外国の地で、守ってくれる人は一人もいない境遇で、ヨセフは、本当に心細く不安であつたことでしょう。兄たちのことを思い出す度に腹の底から怒りがわいてきたに違いありません。しかし、ヨセフは、大きい不安や突き上げて来る怒りに支配されコントロールされる事はありませんでした。自暴自棄になる事もなかったのです。それは、エジプトでの逆境の日々、聖霊なる御神がヨセフに十二分に働いてくださったからではないか、と思います。過去を想って怒りに心が占領されそうになる時、将来を想って不安に存在全体が乗っ取られそうになる時、彼は、祈り、そして、「今は、兄たちのことは一旦忘れよう、今は、あまり先の事は考えずに、目の前のやるべきことに、最善を尽くそう。今に集中して生きよう」と気持ちを立て直したのだと思います。そうでなければ、ヤコブに我がまま放題で育てられたヨセフが、ポティファルや牢の管理人や囚人仲間から信頼されることはなかったでしょう。

一方、聖霊なる御神の導きを一切受け入れず、自分の思いだけで生きるとうなるのか、ヨセフのエジプトでの最初の主人、ポティファル夫妻がそのよい例のように思います。ヨセフを奴隷として買ったエジプトのファラオの侍従長ポティファル。主なる御神がヨセフを祝福してくださったので、彼がやる事は何でもうまくいき、ポティファルの家は、ヨセフの故に大いに栄えた、と創世記は語ります。ですから、ポティファルはヨセフに全幅の信頼を寄せ、全財産をヨセフの手に委ねてしまいます。その様子を創世記の編者は「**自分の食べるもの以外**

は全く気を遣わなかった」と語ります。つまり、自分の家族にも全く関心を向けなかった、心に向けなかった、ただ自分の事だけしか考えなかった、というのです。さて、先ほどの子どものメッセージでは詳しく話しませんでした。ポティファルの妻は、美しく優秀な若者であるヨセフに横恋慕し、自分と関係をもつように迫ります。ヨセフは困惑し、咄嗟に女主人から逃げられます。立派なセクハラです。彼女は責めを追わねばなりません。が、妻にさえ関心を失ってしまったポティファルのことを考えると、彼の態度が、妻の浮気心の一因であったかもしれませぬ。ヨセフに逃げられた妻は、腹いせに、「奴隷のヨセフが自分を乱暴しようとした」と夫に訴えます。ポティファルは妻の嘘が見抜けず、その言葉を鵜呑みにし、自分のプライドが傷つけられた為に、ヨセフを捕えて牢に入れてしまいます。ポティファルも妻も、自分の心を主人として、誤った選択ばかりして、どんどん墮落していきます。

一方、ヨセフは、共にいてくださる主なる御神、つまり、聖霊なる御神に導かれ、主の道を一步一步歩んで行きます。聖霊なるお方は、自分の心を主人とした時、何を為すべきか、何を為すべきではないかさえも判断がつかない私たちに、まさしく神の御心、神が為すように、為さないように、と仰っていることを具体的に教えてくださる方、そして主なる御神の御許へと導いてくださる方、と言えるのではないのでしょうか。

3 神を教えてください

このようにヨセフは、エジプトで様々な苦難を、霊なる御神のみ力で切り抜ける経験を重ねていき、御神について知ることができました。天の神さまが自分を如何に深く自分を愛してくださり、助け導いてくださるお方であるか、「神は確かに生きて働いておられる！」と実感する事ができたのです。それは私たちも同じです。聖霊なる御神は、私たちに主イエス・キリストの愛を教えてください。主イエス・キリストがわたしたち一人一人をかけがえのない存在として深く深く愛してくださっているか、わたしたちが主イエス・キリストに倣って互いに愛し合って生きることをどれほど望んでおられるか、聖霊なる御神は、私たちに父なる御神と子なるイエス・キリストの聖なる愛を教えてください。お方なのです。

それは、次の主イエスの言葉からも明らかです。主イエスが、復活から四十日後、天の父なる御神の御許に帰られる直前、使徒たちに語った言葉です。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤ、サマリアの全土で、また、地の果てに至るまでわたしの証人となる。」

証人は、証しする人を知らねばなりません。聖霊が降ると、力を受けて、使徒たちはどうなるのか？という、地の果てに至るまでの主イエス・キリストの証人になるのです。つまり、聖霊なる御神が主イエス・キリストがどのようなお方かを教えてください。と主イエスは約束してください。だからこそ、聖霊なる御神を注がれた者達は、主イエスの証人となることができるのです。

いつどこで主イエス・キリストがどのようなお方か示されるのか？礼拝もそうですし、教会

の交わりでもそうですし、日常生活でもそうです。聖霊なる御神は、いつも私たちに主イエス・キリストを指し示してくださるお方なのです。順調で全てに満ち足りている時よりも、試練の時、逆境の時、聖霊なる御神は、より強く大胆に、私たちに父なる御神と主イエス・キリストのことをより多く教えてくださるようです。それは、私たちが試練の時、苦しい時ほど、神の導きと御力を強く祈り求めるからかもしれません。神は、聖霊なる御神を通して私たちの祈りに応えてくださいます。

このように聖霊なる御神に導かれる日々こそ、私たちを変えて行きます。どのような者に変えてくださるのでしょうか。神を愛し、自分を愛し、人を愛する者へと変えていくのです。父ヤコブのもとでのヨセフは、自分しか愛せない者でした。しかし、聖霊なる御神に導かれたエジプトでの試練の日々によって、神を愛し、自分を愛し、人を愛する者へと成長して行くことができ、神の御計画に向けて整えられていったのです。

4 使命を与えてくださるお方

聖霊なる御神の導きは、その人の為だけではないからです。自分だけの小さな成功が、聖霊に導かれる者達の目的ではありません。神の義と神の愛は、自己満足とは無縁なもの、自分の満足を超えて、無限の広がりをもたらします。神の御心は、私たち一人一人が、聖霊なる御神に導かれ主イエス・キリストの証人となる事によって、神の国、神の御支配をこの地上に広げていくと言う処にあります。神の国、神の御支配をこの地上に現わす為に、み神はわたしたち一人一人にそれぞれの使命を与えてくださいます。

ヨセフは、ベニヤミンの罪を肩代わりしようとするユダの姿から、兄たちを赦し和解した時、神から自分に与えられた使命に気付きました。聖霊なる御神が働いてくださったのでしょうか。だからこそ、確信をもって次のように言うことができました。「神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。」アブラハムから続く神の民を大飢饉から救い、アブラハムとの約束を守る為に、み神は、ヨセフを用いてくださいました。「自分の苦労の日々は、決して無駄ではなかった、神に豊かに用いられる為の日々であった！神にあっては、何一つ無駄なことはない。」自分に使命を与え、大胆に自由に用いてくださる神の御旨に気付かされた時のヨセフの喜びはいかばかりでしょうか。想像してあまりありません。

わたしたちも同じだと思います。父なるみ神はわたしたちを聖霊なる御神できよめて用い、使命を与えてくださいます。神は少しも無駄な事はなさいません。一人でも多くの人を、大いなる救いに至らせるため、つまり、神の御支配の内に一人でも多くの人が生きるために、わたしたち一人一人に、使命を与えてくださいます。

5 聖霊に導かれて生きる

しかし、これは幾度も語るのですが、天の御神は、私たちを操り人形のようにして洗脳しようとはなさいません。愛なる神は、造られた者、被造物である私たちを一個の存在として尊び、わたしたちの自由意志を尊重してくださるのです。神はわたしたちが、自分の意志で、聖霊なる御神に自分の主導権を明け渡し、聖霊なる御神の導きのもとに歩むことを強く望んでおられます。聖霊なる御神に自分の主導権を明け渡すことこそ、主イエス・キリストの十字架の愛を溢れるほどに受けて歩むことであり、その歩みが、大いなる救いへとつながって行きます。

このような聖霊に主導権を委ねて歩む日々、大いなる救いへの日々はいつ始まるのでしょうか。洗礼を受け教会に加えられたときから始まる、と主イエスは仰います。「ヨハネは水で洗礼(バプテスマ)を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によるバプテスマを受けられるからである。」バプテスマとは、もともと、全身を水などに浸すことを言います。わたしたちは、洗礼を受けて全身を聖霊に浸すことによって、聖霊なる御神と共に生きる命へとされるのです。

最後に、R.ボーレン先生が聖霊のお働きを謳った詩を紹介します。

「さまざまな不安が我らのもとに鳥のように飛んできて
我らの内に巣を作ろうとするとき、
我らはあなた、聖き霊のもとに逃れる。

聖霊よ、あなたはすでに我らのもとにいます。
我らがあなたの内へと沈められた時からすでに。

あなたは我らを強め、愛する力をくださる。
我らが愛せないその処(ところ)でも。

あなたは我らを導き、訓練し、
あなたの教会へと建て上げる—今日もまた。

示してください、我らがしなくてもいいことを。
示してください、我らが為すべきことを。」

(R.ボーレン著、川中子義勝訳 教文館“祈る”p46より)

この祈りを我らの祈りとして、御霊の導きにより、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。